第８３回 長崎大学ＦＤ実施報告書

平成 24 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
　①　アクティブ・ラーニング講座５　－Ａ　クリティカル・リーディングとは－

【趣　旨】　今日の大学教育改善では、学生の自学自習をいかに促すかが大きな課題となっています。そこでは、単に学習時間が長くなることを目ざすだけでなく、様々な資料を批判的に理解し、自律的に思考を深めていく態度や技能の育成が伴わなければなりません。こうしたクリティカル・リーディングの力は、いわゆる PISA 型読解力として、初等中等教育だけでなく高等教育でも重要な教育目標となるものです。本プログラムでは、PISA 型読解力の評価・育成の第一人者である講師とともに、ブッククラブを取り入れたクリティカル・リーディング強化の工夫を共有します。

【対　象】　全教職員

【日　時】　平成 24 年８月 27 日（月）　14:00～17:00

【場　所】　長崎大学文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　有元秀文氏（元国立教育政策研究所・総括研究官）

【内　容】
①　講師より、クリティカル・リーディングの内容・評価・育成に関するプレゼンテーション（60 分）
②　クリティカル・リーディング力育成の工夫の体験的理解（90 分）
③　授業への導入計画立案と質疑応答（30 分）

【到達目標】
①　クリティカル・リーディングの内容と評価方法を説明できる
②　クリティカル・リーディング力育成の工夫をいくつか挙げることができる
③　クリティカル・リーディング力育成を意図した授業設計ができる

【主　催】　教務委員会

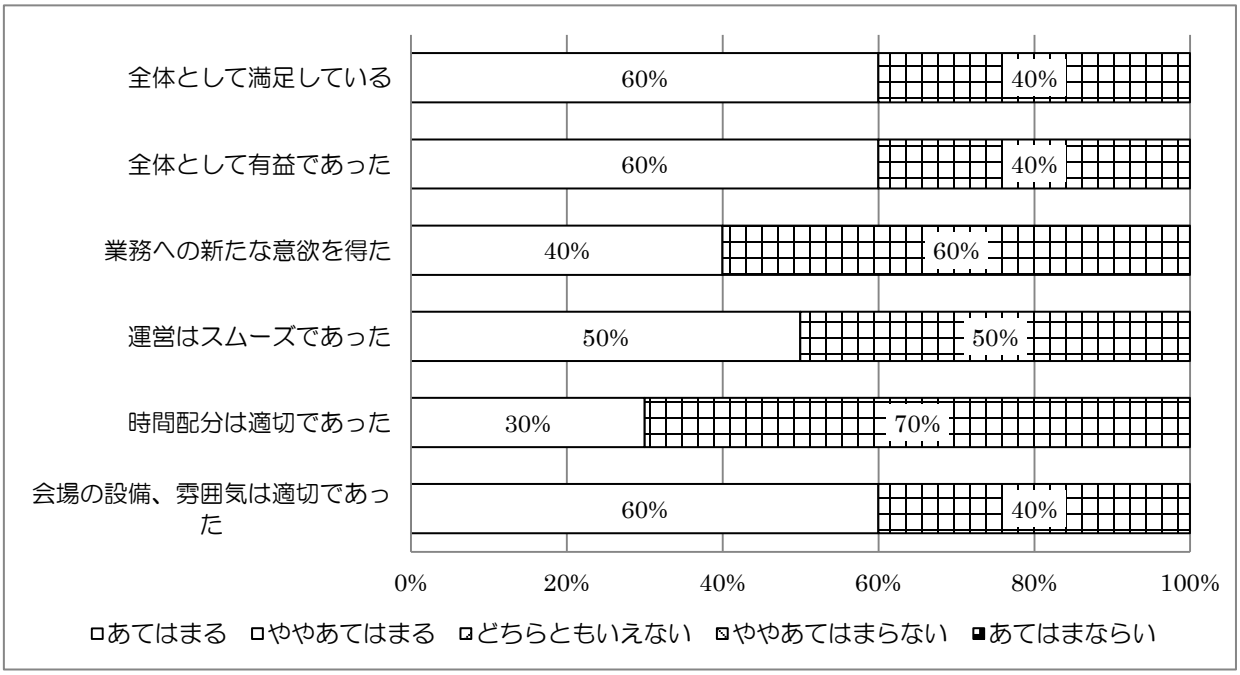
【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
１２名（受講証発行対象者：１２名）

所　　属	人　数

教育学部	2
経済学部	2
医歯薬学総合研究科（保系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
医歯薬学総合研究科（薬系）	2
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
情報メディア基盤センター	1
産学官連携戦略本部	1
計	12

【参加者からの評価】



〇今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 授業での活用方法を考えたい。
- クリティカル・リーディングの技術的な部分が簡潔に説明されたため非常に参考になった。
- グループ学習によって幅が広がることを実感した。クリティカル・シンキングは医療を行う面でも科学を行う面でも重要で、何にも通じることを知った。
- 意見を出すといった点で難しさを感じる部分がありましたが、本日の FD でいろ

いろな考え方を学ぶことができた。もっと難しいものと思ったが、やれそうだと思った。

- 今回の例をもとにグループディスカッションをやってみたくなった。
- 長大生にもできることだと思った。

〇内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 本を購入しようかと考えていたので、販売時間を考えてほしかった。
- 時間配分に少し不安を感じながら受講していた。

【総　括】

「クリティカル・リーディングとは」という堅くて難しいイメージを持って FD に臨んだが、小学校の国語の教科書に出てくるような身近な題材で、クリティカル・リーディングの向上に取り組めることに感銘を受けた。講師は説明でパワーポイントを使わず、すごく新鮮な印象を受けた。ただ、時間配分の関係で、最後の課題を演習できなかったのは残念であった。

受講者のアンケート結果を見てみると、全体として満足しているかの設問に対し、「あてはまる」（６０％）と「ややあてはまる」（４０％）をあわせると、受講者全員が満足していたことが確認された。また、全体として有益だったかの設問についても、同様に受講者全員が肯定的な評価を示した。同様に、業務への新たな意欲を得たか、運営はスムーズであったか、および会場の設備、雰囲気は適切であったかの設問に対しても、「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせて受講者全員が肯定評価しており、非常に有意義な FD であったと推察される。

本 FD に関する自由記述からは、「クリティカル・リーディングの技術的な部分が簡潔に説明されたため非常に参考になった。」「授業での活用方法を考えたい。」など、今後の授業に実際に活用できる内容であったことが窺える。また、グループディスカッションを通じて、内容の理解がより深まったように考えられる。一方で、時間配分や教材提供に関する指摘がみられた。さらに、受講者が大変少なかったことから、アクティブラーニングへの教員の備えは大丈夫だろうかと、個人的には少々不安を感じた。

第８３回 長崎大学ＦＤ実施報告書

平成 24 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
② アクティブ・ラーニング講座５ －B フィールドワークを取り入れる－

【趣 旨】 フィールドワークは、アクティブラーニングの代表的な方法の一つであり、自学自習を動機づける重要な契機ともなります。しかも今後、ジェネリックスキル育成に向けて大学教育の場はキャンパス外に拡がり、地域の多様な人々と関わり合いながら現在進行形の事象をテーマにした探究活動を行っていくことが求められています。そこで本プログラムでは、「調査課題をどのように設定していくか」「現場での観察から、ボトムアップ式にどのように問題を発見・整理し、グループで取り組む課題へと昇華させていくか」に焦点を当て、インタビューを中心としたフィールドワーク技法を体験的に学びます。

【対 象】 全教職員

【日 時】 平成 24 年８月 28 日（火）14:00～17:30

【場 所】 長崎大学文教キャンパス 教育学部 41 番教室

【講 師】 増田研・准教授（環境科学部）

【内 容】
①講師より、フィールドワークに関する総論と事例のプレゼンテーション（40 分）
②グループワークとインタビューを中心としたフィールドワーク技法の体験的理解（140 分）
③授業への導入計画立案と質疑応答（30 分）

【到達目標】
①フィールドワークの意義と留意点を説明できる
②フィールドワークの代表的な技法を説明できる
③フィールドワークを取り入れた授業設計ができる

【主 催】教務委員会

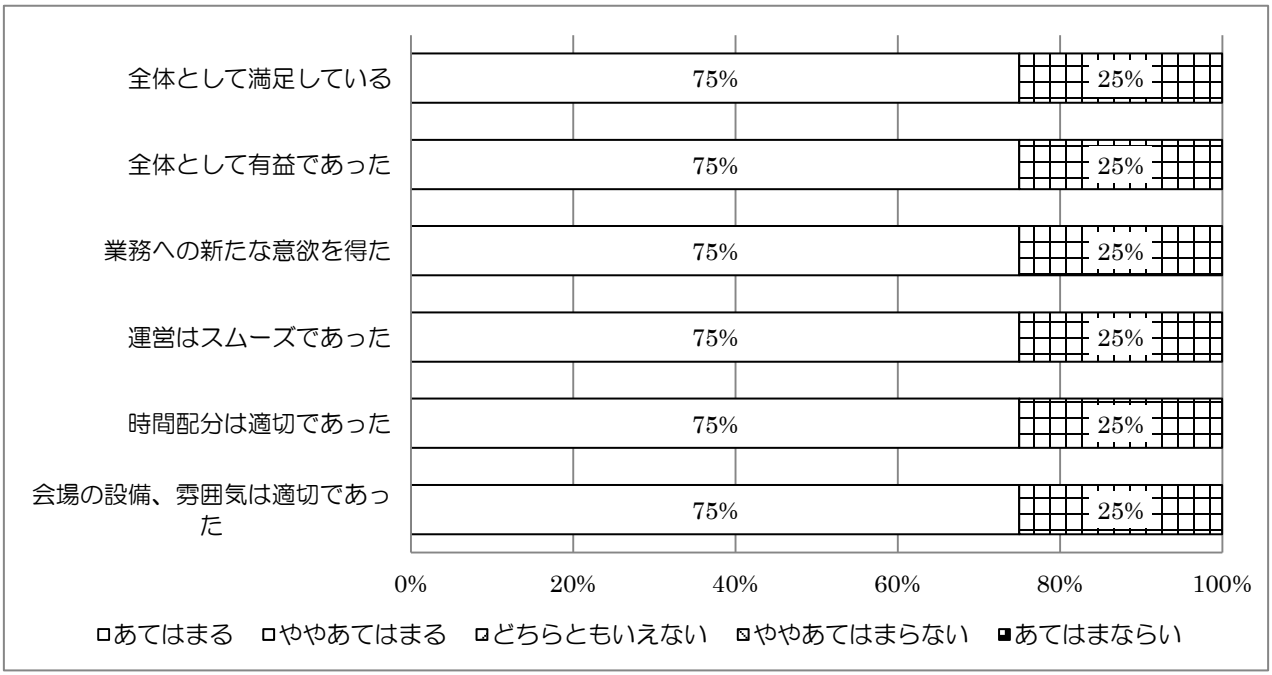
【企画・運営】評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
６名（受講証発行対象者：６名）

所　　属	人　数

医歯薬学総合研究科（保系）	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	2
病院	1
核兵器廃絶研究センター	1
計	6

【参加者からの評価】



〇今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 大変勉強になった。自分の授業にどうフィールドワークを入れるかが難しい所です。
- 今までに学んだことがない分野のお話で、大変興味深かった。本日学んだことを学生の指導につなげたいと感じた。

【総　括】

今回のワークショップは、フィールドワークを取り入れた授業方法について、その意義から授業の進め方、注意点等についてこれまでの実践から具体的な説明があった後、受講者が学生となってこれを体験し、最後に疑問点や授業担当者の学生への関わり方等について討議した。３時間半という長丁場にも関わらず、熱の入ったワークショップであった。

受講者が６名と少なかったが、その分濃い中身となった。受講者の感想・意見も肯定的で評価が高かったのも頷ける。受講者は、フィールドワークがアクティブ ラーニングの有用なツールであることを実感できたものと思われる。

幸い、ビデオ録画も撮られているので、今後多くの教員に活用されることを期待する。

第８３回 長崎大学ＦＤ実施報告書

平成 24 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ

③　新人教員のための授業創造入門

【趣　旨】　初めて授業を担当される方、また授業方法を再考してみたい方を対象に、この講座では授業創造の基礎的事項を概観します。授業設計から始め、授業方法の様々、学習評価や授業評価の方法、授業記録の順に、各局面での留意点を整理します。事前に、参加予定者の方から授業づくりに関する疑問や関心等をお聞きして、それらを焦点にした意見交換を交えながら進める予定です。

【対　象】　全教職員（主に新人教員）

【日　時】　平成 24 年８月３０日（木）　10:00～12:00

【場　所】　長崎大学文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　山地弘起・准教授（大学教育機能開発センター）

【内　容】

① 授業の設計（全学共有学士像、カリキュラム内の位置づけ、シラバスの書き方、NU-Web、TA）
② 授業の方法（教授法、教材、予復習課題）
③ 学習の評価（教育評価の基礎、成績評価、学習者アンケート）
④ 授業の評価（授業日誌、公開授業、学生による授業評価）
⑤ 授業の記録（授業実施記録、ティーチング・ポートフォリオ、成績資料の保存）

【到達目標】

① 授業創造のプロセスを概説できる
② 担当授業の改善に向けて、具体的な工夫を考え出すことができる

【主　催】　教務委員会

【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

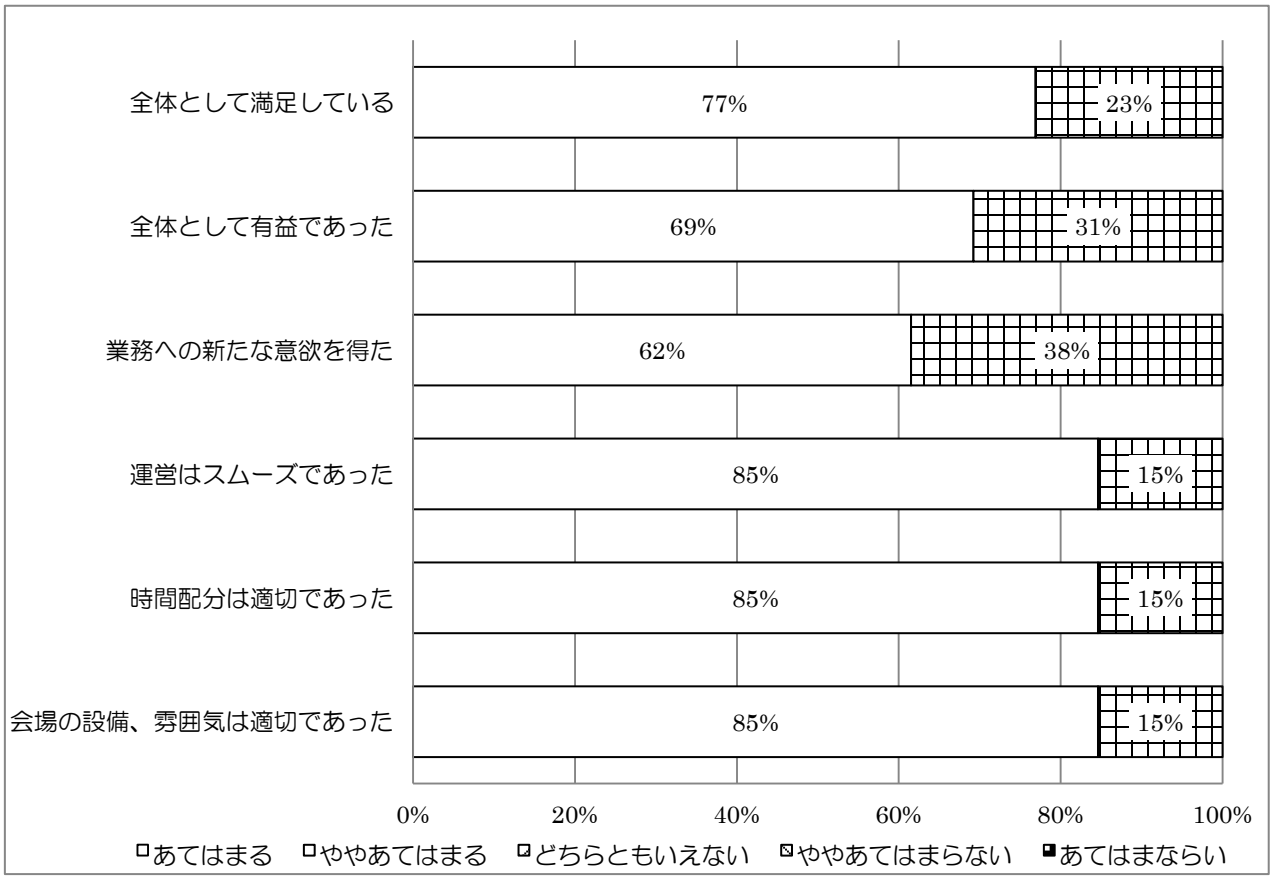
【参加者】

１３名（受講証発行対象者：１２名）

所　　属	人数

教育学部	1
経済学部	1
医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（保系）	3
医歯薬学総合研究科（薬系）	2
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
病院	1
情報メディア基盤センター	1
言語教育研究センター	1
核兵器廃絶研究センター	1
計	13

【参加者からの評価】



〇今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 新人の先生は必須にした方が良いように感じた。
- 自分の授業を再構築してみようと思った。
- 他の教員の工夫が聞けて参考になった。
- 授業の設計等について具体的にイメージをすることができるようになった。また、他学部の授業を担当されている先生方とディスカッションできたのも有益であった。
- 直接明日から役立ちそうな内容だった。グループワークも楽しかった。
- 大変参考になりました。
- 授業に関して全体像が理解できたのでより実践につなげそうだった。
- 薬学部の DP 対応表の考え方は参考になった。
- 他の教員の授業のやり方、改善方法、いろいろ話を聞けて良かった。
- ARCS モデルが最も参考になった。自分の講義の見直しにもなった。
- 山地先生の講義は大変興味深く、シラバスの改善方法について検討することができた。

〇今後、FD・SD のテーマや実践方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- せっかくの講義講座をビデオで配信したい。
- 学生のモチベーションを高めることや問題のある学生の対応に関するテーマについて興味がある。

【総　括】

参加者からの評価のすべての項目について，「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計点が 100%の大変有意義な講座であった。参加者のコメントにもあるが，新人教員には着任時に受講してほしい内容の講座であり，次年度より，特に 4 月の新人教員着任時の FD に組み込むべきかと思われた。また，新人以外の教員も自分の担当している講義の設計，授業の方法，学習の評価方法等について，今一度，ふりかえってみてもらうために参加してほしい講座でもあった。講座の中で行ったグループ学習については，参加者が体験学習することができて大変効果的だった。

大学教育において学生に主体的に考える力を育成することやアクティブラーニングの充実のために，自分自身の担当している講義の設計，授業の方法，学習の評価，授業実施記録のことなどについて考えてみるいい機会になったと思われる。

第８３回 長崎大学ＦＤ実施報告書

平成 24 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
④　コミュニケーション・スキルアップ－わかりやすい話し方のコツ－

【趣　旨】　授業や研究発表、会議等の場面では、話す内容のみならず、相手に伝えるための「話し方」が重要なポイントとなります。あの人の話は聞きやすい、わかりやすい、と言われるためには何が必要なのでしょうか？本プログラムでは、アナウンサーと同様の訓練を交えながら、伝わる声，伝わる話し方をするためのコツについてトレーニングを行います。日本語の音声技術を，発声・発音などの基礎から学び，聞き手と向き合うことのできる話し方を考えてみましょう。

【対　象】　全教職員

【日　時】　2012 年８月 30 日（木）14:00～17:00

【場　所】　長崎大学文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　小田切めぐみ氏（東京農工大学非常勤講師・文京学院大学非常勤講師）

【内　容】
①届く声を出すための練習・・・日本語をわかりやすく音声表現するためのトレーニング
(呼吸法・発声法／発音・滑舌練習／アクセント・イントネーション・ポーズ)
②伝わる話し方の練習・・・言葉の力でわかりやすく伝えるためのトレーニング
(歯切れよく，メリハリをつけて読む／見たものを明確に伝える／聞いたことを簡潔に伝える／方法や状況を正確に伝える)

【到達目標】
①スピーチに求められる適切な発音・発声法の基本について説明することができる
②自分の話し方・伝え方のクセに気づいて修正することができる
③聞きとりやすい発声・発音を用いて相手に伝わるように話すことができる

【主　催】　教務委員会

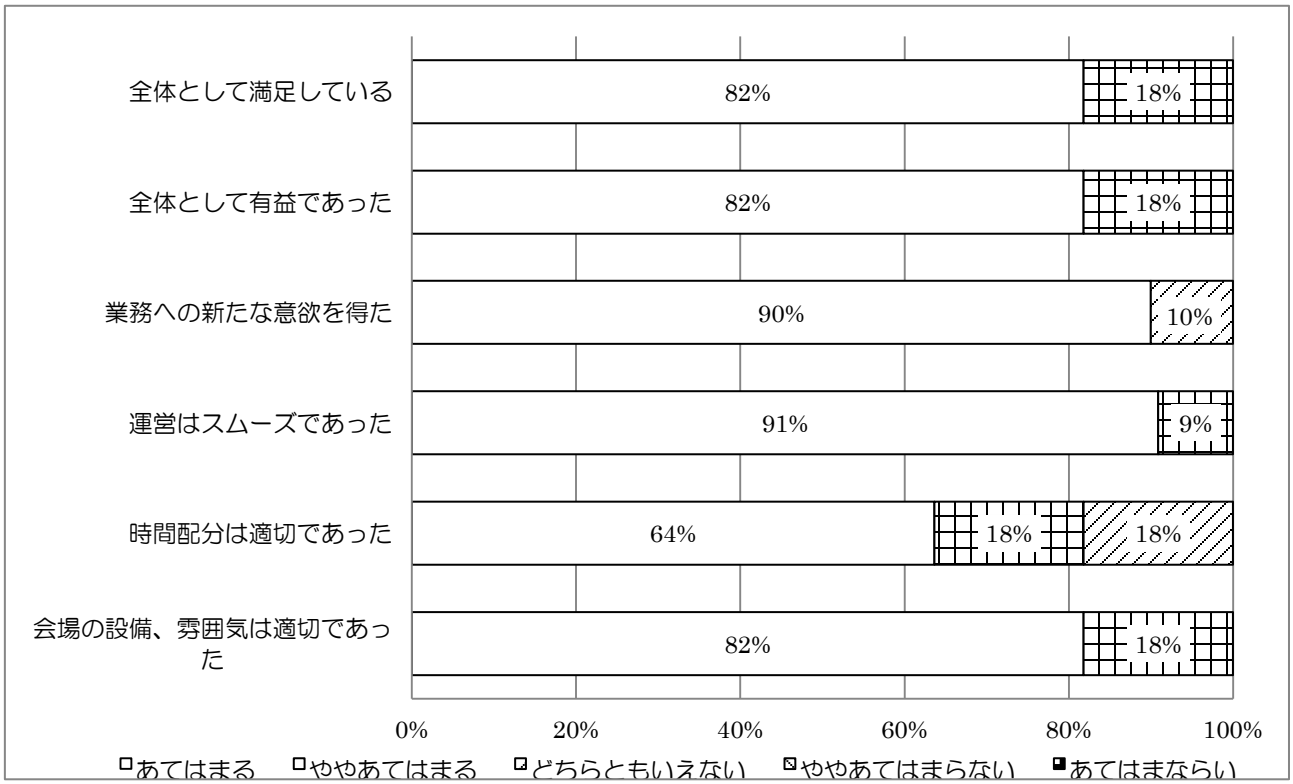
【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】

１３名（受講証発行対象者：１３名）

所　　属	人　数
教育学部	1
経済学部	2
医歯薬学総合研究科（医系）	3
医歯薬学総合研究科（歯系）	2
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	3
病院	1
計	13

【参加者からの評価】



○今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 今まで受けたＦＤで最も自分の為になった。

- 時間が長すぎると感じた。
- 通常全く気付かない部分に目を向けることができた。今日から学んだことを活かすようにしたい。
- 予想していた内容とは違っていたが、満足できる内容であった。
- 普段と違って楽しくやることができた。
- 有益だった。講義等に反映させたいと思う。
- もとが英語科教員なので、大変興味があって参加しました。プロの方にけいこをつけていただいて、充実した時間となった。
- 日頃の練習が大事とは思うができていない。

〇今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

- 講義中の質問にあった、授業中のパワーポイントの使用法についてのワークショップがあってもいいのではと思う。

【総　括】

テレビにも出ていたプロのアナウンサーが、アナウンサー用のトレーニングを教員向けに実施してくれる毎年好評のワークショップである。今年は６年目ということもあってか、参加者は 13 人とやや少なめであったが、アンケート結果からも分かるように今年もたいへん評価の高い結果となった。日本語の音声技術の基礎、腹式呼吸、明瞭な発音、日本語の音声の特徴、滑舌練習、ビデオ撮影による確認と弱点の指摘等、トレーニング中心の非常に実践的な内容であった。また伝えたい内容の整理、伝わりにくい構成など、単に発音のみならずたいへん充実した内容で、教員間のディスカッションもたいへんためになった。

教員は学生に分かりやすい講義を行なう必要があるが、同じ内容でも発声によって伝わり方が異なる。声のよく通る、いい声の持ち主の講演はたいへん聞きやすいが、天性の声を持っていなくても、訓練次第である程度は伝わりやすい発声ができることがよく理解出来た。講義を担当する教員は一度は受けるべきワークショップだと思う。

第８３回 長崎大学ＦＤ実施報告書

平成 24 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
⑤　授業改善のためのクリッカーシステムー入門編ー

【趣　旨】　とくに大人数クラスにおいては、学生との双方向の授業を実現することは容易ではありません。そうした状況で学生の参加度や意欲を高めるには、リアルタイムで回答集計を表示するクリッカーシステムの利用が有効です。本プログラムでは、本学の教養教育で導入予定の専用機型クリッカーと、レスポンス分析に利用可能な WebClass（e ラーニングシステム）のアンケート機能を紹介します。実際に使ってみながら、授業での有効な活用方法を探ることができます。

【対　象】　全教職員

【日　時】　2012 年８月 31 日（金）10:00～12:15

【場　所】　情報メディア基盤センター・第二端末室

【講　師】　井上大輔氏（キーパッド・ジャパン株式会社）
上繁義史・准教授（情報メディア基盤センター）

【内　容】
①専用機型クリッカーTurningPoint の紹介
②WebClass のアンケート機能を用いたレスポンス分析の紹介
③授業で活用する際の留意点の解説

【到達目標】
①クリッカーシステムの用途を説明できる
②専用機型、携帯対応型それぞれの基本操作ができる
③授業でクリッカーシステムを活用する際の留意点を説明できる

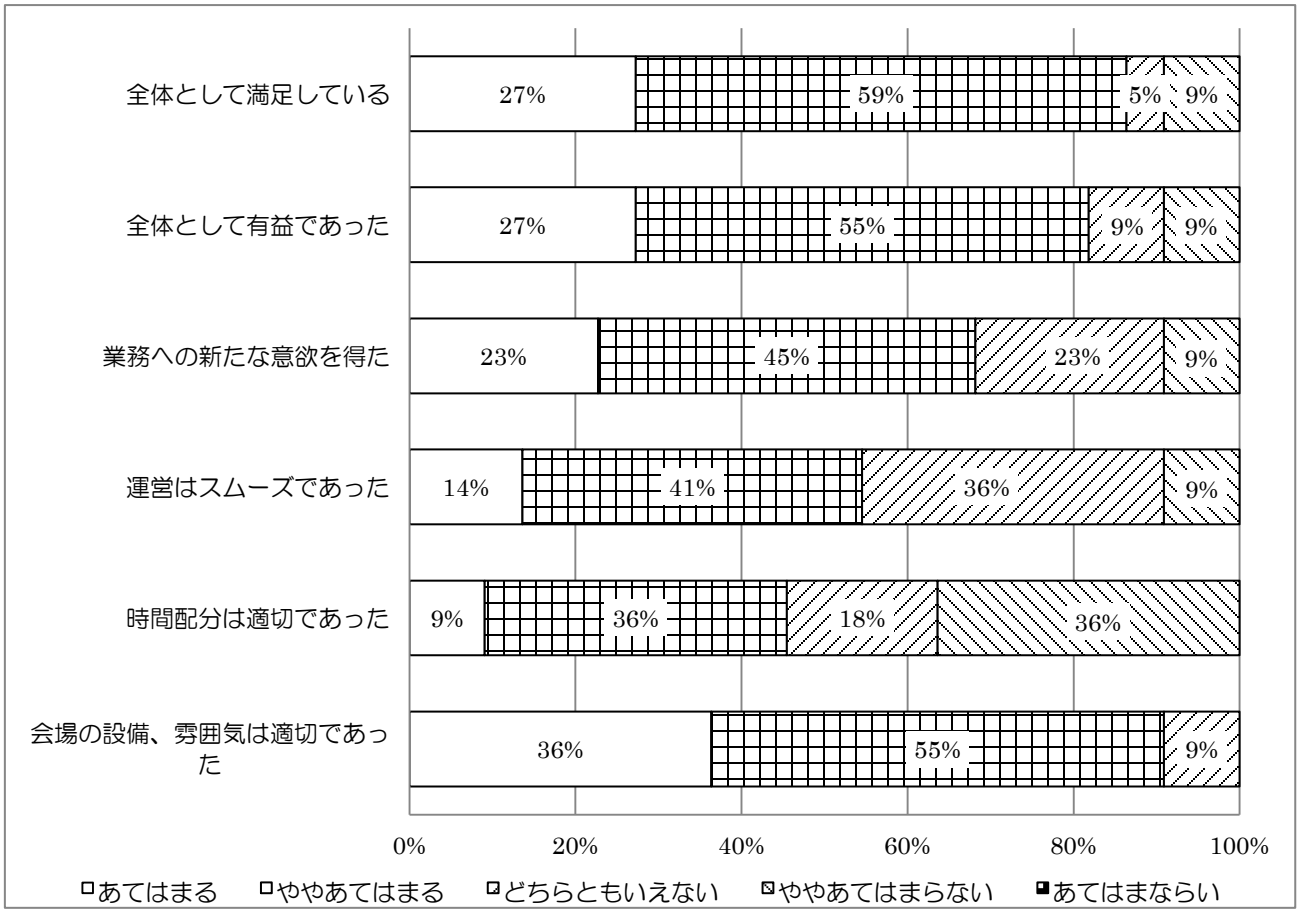
【主　催】　教務委員会

【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
２６名（受講証発行対象者：２６名）

所　　属	人　　数
教育学部	1
経済学部	4
医歯薬学総合研究科（医系）	2
医歯薬学総合研究科（保系）	3
医歯薬学総合研究科（薬系）	1
工学研究科	4
水産・環境科学総合研究科（環境）	4
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
病院	1
情報メディア基盤センター	3
言語教育研究センター	1
核兵器廃絶研究センター	1
計	26

【参加者からの評価】



〇今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 携帯電話での入力は少し面倒だ。PW はあまり複雑でない方が良いと感じた。ある程度限定した使い方が良いのだろうと思う。
- WebClass はパソコンで使った方が良いと思う。
- 大変有益な内容だった。今後大いに活用したい。
- 授業でクリッカーを使ってみたいと思う。
- もう少し実習があれば良かったと思う。
- 享用機型クリッカーの紹介について、全体は理解できたが、実際のソフトの利用方法だったので、体験型が良かったのではと思う。例えば各自ノートパソコンを持ってきて、TurningPoint ソフトをインストールしてプレゼンテーションを作成し、アンケートシステムを作成するなど。
- WebClass の時間が足りなかった。
- キーパッドクリッカーの利用方法を理解したいのに、配布資料とプレゼンスライドが異なっていて、結局、応用的な操作法は何が可能なのか覚えられなかった。最初から配布してほしい。
- WebClass と iPortfolio Maker の違いは何か。それぞれのメリットを知りたい。どちらを使えばいいか迷っている。
- 使用してみたいと思う。今日は入門編ということだろうが、利用例を公開してほしいと思う。
- クリッカーの方は今すぐ職場で導入されるかどうかわからないが、とても便利なツールだと思う。WebClass は、よくわからないまま使っており、今日の講義を聴いてすぐに（秋から）活用できる気がした。

〇内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください。

- 基本編なので紹介程度だったのだろうと受け止めている。
- 今回は少し時間が足りなかったと思う。
- 学部にクリッカーシステムの response card やレシーバが設備されていないことを今回参加して知った。まだ使用できない状態にあることを事前に知らせて欲しかった。他の業務を犠牲にしてまで来る必要がなく、時間が無駄となった。
- WebClass に関して、話が早すぎた。操作についていけていない人へのフォローがなされていない。正直理解しづらかった。
- 享用機に関しては、聞くだけでなくやはり演習形式が良かった。クリッカー享用機がどのようなものかは分かった。

〇今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記

入ください。

- 大分大の先生による実践的ＦＤに期待する。

【総　括】

①「専用機型クリッカーシステム」については，大学教育機能開発センターで購入したTurningPoint（キーパッド・ジャパン株式会社）の実機を使った機能の紹介，使用方法の説明が行われた。このシステムは，TurningPoint ソフトウェアをインストールした教師用の PC でプレゼンテーション資料を Microsoft PowerPoint で作成して利用することになる。利用者（教員）はこのシステムを借りて講義，演習で活用することになるので，実際のプレゼン資料作成の演習を含んだ方が良かったと思われる。

②WebClass のアンケート機能を用いたレスポンス分析の紹介については，情報メディア基盤センターでサービスしている WebClass の機能を利用する事例で，利用方法については，別の WebClass 講習会と e ラーニングコンテンツ開発支援室の活用を薦めた。両方とも，参加者（講義では，学生達）がどのように考えているのか，どの程度内容を理解しているのかなどを即座に把握できるツールであるので，今後の活用を期待したい。

第８３回 長崎大学ＦＤ実施報告書

平成 24 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
⑥　アクティブラーニング事例報告

【趣　旨】　本学におけるアクティブラーニングの工夫を共有し、参加者の皆さんの授業改善に役立てていただくことを目指します。今回は、少人数から中人数の授業として、フィールド観察を含めた書道科教育法の指導例と、実験と動画を活用した化学教育の事例を紹介します。これらの報告をもとに、とくにアクティブラーニングの事前準備や学生への働きかけ等について意見交換を行うことで授業改善へのヒントを見いだしていただけるよう願っています。

【対　象】　全教職員

【日　時】　平成 24 年９月 26 日（水）10:00～12:00

【場　所】　長崎大学文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　村上裕人・准教授（工学部）　山地弘起・准教授（大学教育機能開発センター）

【内　容】
①　２名の講師からの授業改善事例の紹介（25 分×２＋討論 30 分）
②　後期授業に向けて，授業改善の工夫を相互に提案・討論（40 分）

【到達目標】
①　事例報告をもとに、アクティブラーニングの重要な構成要素を説明できる
②　今後の授業改善の工夫を具体的に挙げることができる

【主　催】　教務委員会

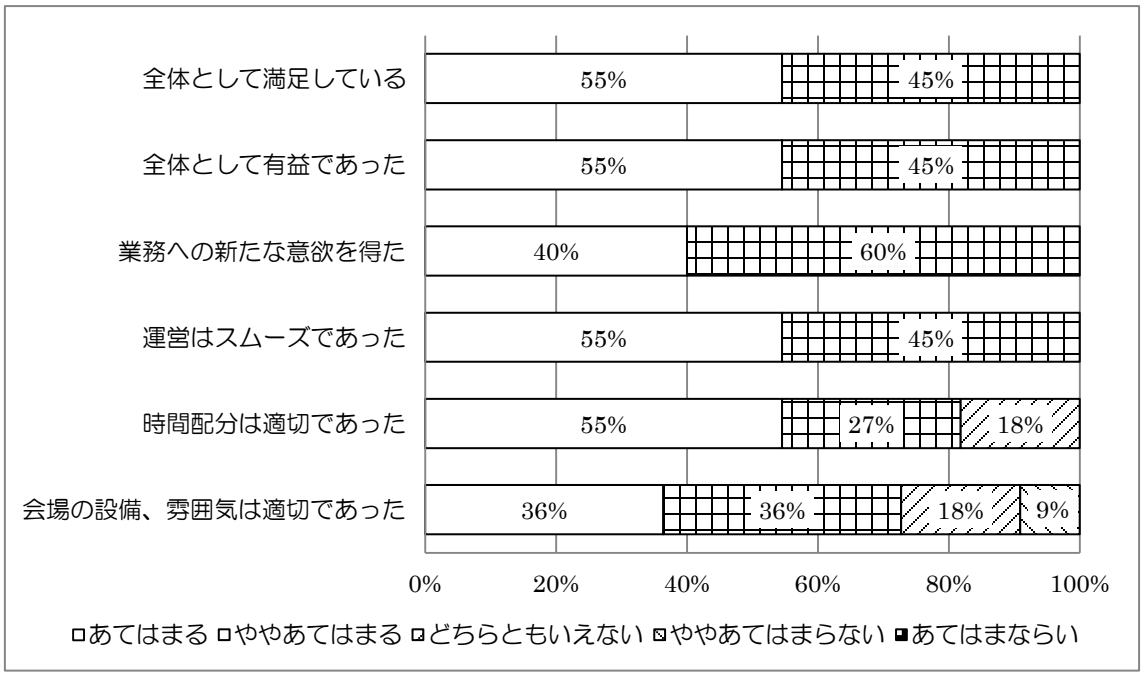
【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】

１１名（受講証発行対象者：１１名）

所　　属	人　数
教育学部	1
経済学部	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
工学研究科	2
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
情報メディア基盤センター	1
アドミッションセンター	1
言語教育研究センター	1
核兵器廃絶研究センター	1
産学官連携戦略本部	1
計	11

【参加者からの評価】



〇今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ２人の先生の実践例は大変参考になりました。
- 他の先生の授業に関する経験等を聞けたので、講義について参考に工夫してみようと思います。
- 教育手法について色々と参考になりました。活用させて頂きます。

- 共感できることが多かった。担当授業に反映させたい。
- アクティブラーニングでは教員もアクティブであることが求められると思う。（予習・復習のチェック、小テスト・レポートの採点など）現実には特定の科目のみに時間をさけるわけではないので、その落とし所が難しいと感じた。
- 村上先生の工夫や努力が大変参考になった。

〇内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 前回も感じたのですが、机の配置が前すぎます。

〇今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実践方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 体験型授業づくりの学習会があれば受けたいと思います。

【総　括】

２件のアクティブラーニング（AL）事例報告をもとに、それぞれの事例に基づいて質疑応答が行われた。村上准教授の実践例では、受講者数が多い場合には考えることを促すための計算課題や小テストの導入が、受講者数が少ない場合にはレディネスに応じたPBL の導入が紹介された。また、AL 実施上の問題点として、恥ずかしがる・やらない学生への対応として教員の発問の重要性が指摘された。さらに ICT 活用や講義内容の身近なものへの利用例の紹介が、実感できる講義に繋がるとの説明があり、今後、新たに導入されたクリッカーの利用も含め、次回が期待できる内容であった。また、山地准教授の実践例では、モジュール科目における参加型の AL 導入例が紹介され、身体接触を伴う体験的な構成的エンカウンターの問題点として、評価方法や授業時間の確保や参加者の特徴にどのように対応するかなどがあげられた。

受講者のアンケート結果を見てみると、全体満足度、有益度、運営面では、全員の受講者が満足していたことが確認された。業務への意欲増進も同様であったが、時間配分や会場の設備、雰囲気は、2割程度の参加者が、「どちらともいない」、「ややあてはまらない」と否定的な意見を持っており、運営面で改善の余地があることが分かる。

本FD に関する自由記述からは参考になった意見が多かったが、ALを実施する上での教員自身のアクティブ度を高める工夫や体験型授業づくりの学習会の開催希望があり、ALと一般的な講義スタイルの組み合わせ方や授業構成のポイントといった内容の研修の必要性を感じた。

第８３回 長崎大学ＦＤ実施報告書

平成 24 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
⑦　授業改善のためのクリッカーシステム　ー活用編ー

【趣　旨】本プログラムは、教養教育で導入予定の専用機型クリッカーシステム（TurningPoint）に関する活用編です。学生の参加度や意欲を高め、学修成果につながる授業を工夫してこられた講師より、クリッカーの有効な活用事例を紹介していただきます。また、クリッカーを実際に活用する際の、事前準備から後処理までを順次習得することができます。初めてクリッカーを使う方にもこれまでの使い方をブラッシュアップさせたい方にも有益な機会です。

【対　象】　全教職員

【日　時】　平成 24 年９月 27 日（木）10:00～12:00

【場　所】　長崎大学文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　末本哲雄氏（大分大学高等教育開発センター・講師）

【内　容】
①　クリッカーシステム TurningPoint の特徴と活用事例の紹介
②　クリッカーを活用する際の事前準備・実施・後処理について順次学習
③　授業での効果的活用法と留意点の解説

【到達目標】
①　TurningPoint の仕組みと機能を説明できる
②　クリッカーを活用するための準備・実施・後処理の基本操作ができる
③　授業でクリッカーを有効に活用するための留意点を説明できる

【主　催】　教務委員会

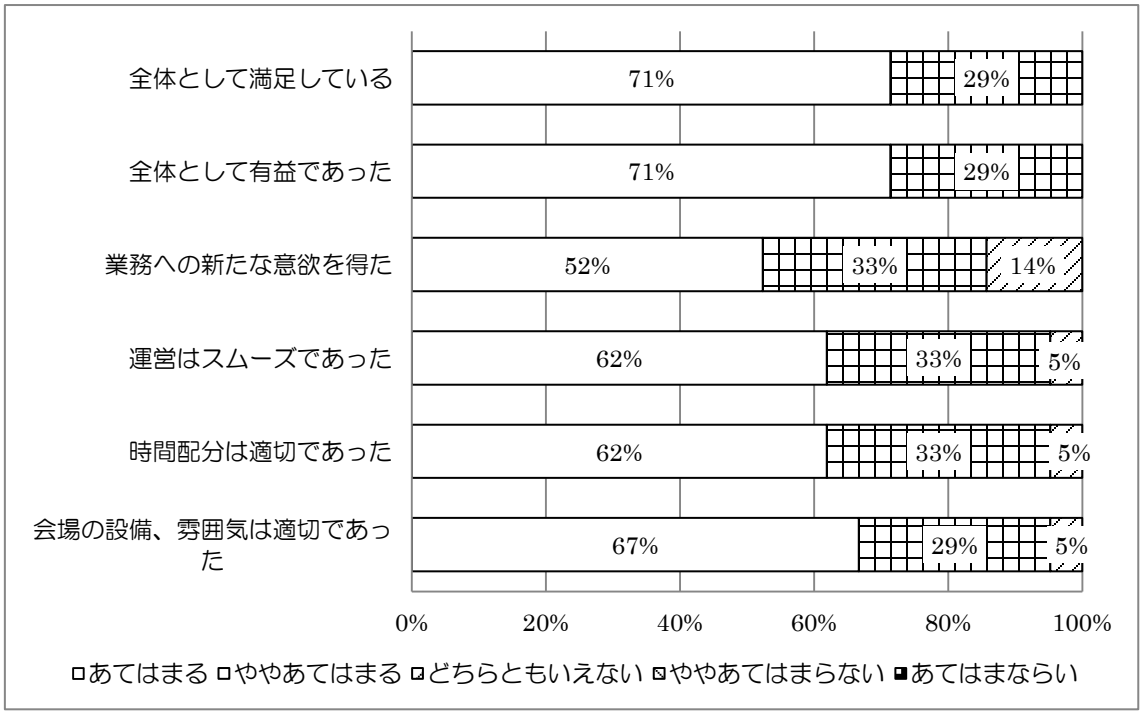
【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
２２名（受講証発行対象者：２２名）

所　　属	人　数
経済学部	３
医歯薬学総合研究科（医系）	２

医歯薬学総合研究科（保系）	1	
医歯薬学総合研究科（歯系）	2	
医歯薬学総合研究科（薬系）	1	
工学研究科	5	
水産・環境科学総合研究科（環境）	2	
水産・環境科学総合研究科（水産）	1	
情報メディア基盤センター	1	
言語教育研究センター	1	
産学官連携戦略本部	1	
国際連携研究戦略本部	1	
病院	1	※事務職員
計	22	

【参加者からの評価】



〇今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ターニングポイントを実際に使ってみて、いろいろ学ぶところが多かった。
- 簡単に操作でき有用と感じた。「良い問いを作る」というのが難しいと感じている。大変ためになる話、実習だった。
- 講義に使いたいと思う。
- 先生の授業を補助するのに必要だったので今回参加したが、大変有意義だった。

- 利用方法はおおよそ理解できたが、要は授業設計だと思う。
- クリッカーの使い方の再確認ができた。
- 大人数の双方向授業に役に立ちそうだと感じた。今までも設問はつくってきたが、これを利用できると有難い。
- 実際に使えそうなのでよかった。
- 手順書が手もとにあればよかった。
- 今回の内容は自習でわかる内容だったので、次のステップを学びたかった。

【総　括】

最初にクリッカーについての概略の講義があり、使いすぎると逆に学生が飽きてしまうなど、実際使用しての情報は有意義であった。その後は、クリッカーを使った事のない者や初心者向けの実習を中心としたワークショップで、１人ずつノートパソコンが準備されており、全員が作業をすることができた。個人的には会議で送信機は使用しているが、そのシステムや講義する側の作業について全く知らなかったので、たいへんわかりやすく、実際に１時間ほど使用し、パワーポイントと連動した設問を作成するところまで出来たのでたいへん役に立つ内容であった。後期から始まった全学モジュール科目はアクティブラーニングが求められていることもあり、モジュール科目担当教員にとってタイムリーな内容であった。本ワークショップの受講のみで、全くの初心者でも講義の準備ができるところまで行けたと思う。

逆にクリッカーを既に使用している者にとってはやや簡単すぎる内容であったかもしれない。最初に講師が「これまで使用したことがあるかどうか」の質問がなされたが、全く使用した事のない者から、既に使用している者まで含まれていたため、次回からは受講者に「初心者向け」「ある程度使用している者向け」などのアナウンスをしておいた方がよいだろう。

今回、KeePad Japan の TurningPoint を使用したが、現在多数のクリッカーシステムが販売されているようである。既に導入している部局もいくつかあったが、これから導入しようとしている部局のための、複数のメーカーの紹介、その違いなどについての説明や資料があればたいへん参考になったと思う。

第８３回 長崎大学ＦＤ実施報告書

平成 24 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
⑧　学生とともに進める教育改善

【趣　旨】　本学では、一昨年 6 月より「学生による教育改善のための協議会」が活動しています。各部局から 2 名～3 名の学生が推薦され、おもに全学教育と学習環境についての改善案をまとめてきました。このプログラムでは、それをもとに教職員と学生との間で教育改善への相互理解を図り、改善の手立てを明確化することを目指します。教員だけでなく、図書館や学生支援センターなど学生と密に接する部局の職員の方々、また関心ある学生諸君の参加を歓迎します。

【対　象】　全教職員

【日　時】　平成 24 年 9 月 28 日（金）10:00～12:30

【場　所】　長崎大学文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　「学生による教育改善のための協議会」メンバー
評価・FD 教育改善専門部会委員

【内　容】
①　「学生による教育改善のための協議会」より、教育改善要望の報告（30 分）
②　参加者との自由な意見交換と改善提案の整理（60 分）
③　改善計画の策定（60 分）

【到達目標】
①　学生の視点からの教育改善の要望を共有する
②　教職員への要望と学生への要望を相互に理解し、教育改善の内容を整理する
③　教育改善の具体化を計画し共有する

【主　催】　教務委員会

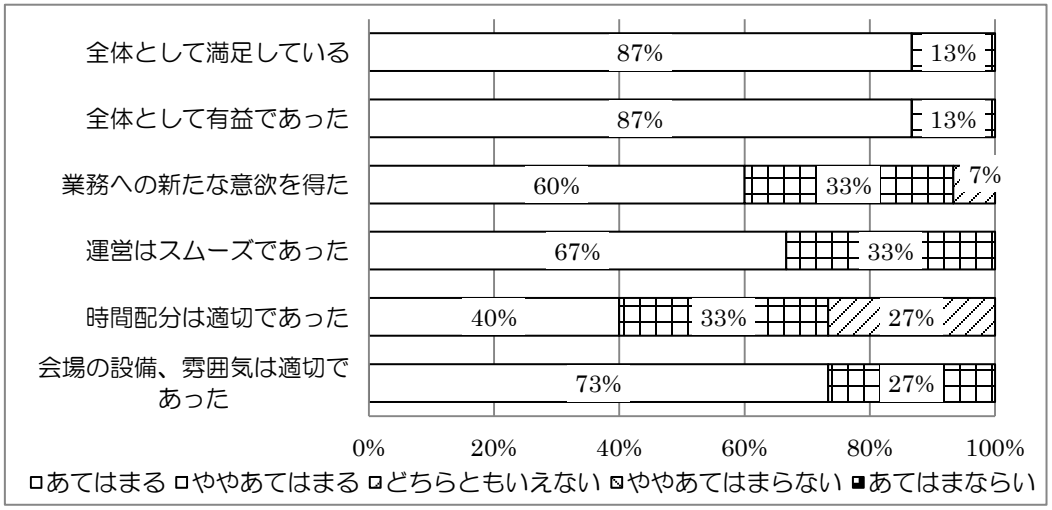
【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
２０名（受講証発行対象者：２０名）

所　　属	人　数
経済学部	1

医歯薬学総合研究科（保系）	1	
医歯薬学総合研究科（歯系）	1	
工学研究科	2	
水産・環境科学総合研究科（環境）	2	
熱帯医学研究所	1	
病院	1	
言語教育研究センター	3	
核兵器廃絶研究センター	1	
学術情報部	4	※事務職員
学生支援課	3	※事務職員
計	20	

【参加者からの評価】



〇今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 学生の声がきけてよかった。事務の方の気持ちがわかった。（教員）
- 教育改善の元となる問題点の共有ができてよかった。（教員）
- 初めて学生の声をきくことができてよかった。（教員）
- 今回は学生の声を聞けて大変有意義でした。今後の講義の参考にさせていただきます。（教員）
- また参加したい。（教員）
- 学生にも新任教員の NuWeb の使い方、定期的にできれば良いと思います。図書館のガイダンスについて、入学時に行うのではなく、画像として NuWeb や e ラ

ーニング等のＷｅｂ上にアップして学生等が使いたいときに（必要時）見れるようにしたら良いと思います。（教員）

- 学生さんと直接話し合い、課題や問題が認識できた。（事務職員）
- 学生との意見交換ができたことはとてもよかった。（事務職員）
- 学生からの意見を踏まえ改善すべき点は改善していきたい。（事務職員）
- ワークショップを全学的に公開等して情報共有をしてほしい。時間が不足していた。（事務職員）
- みんな色んなことを考えていて驚いた。（学生）

〇内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 参加性がほしい。（教員）
- 当日朝にメールで開催のお知らせをして欲しい。（事務職員）
- 窓口のあり方を検討したいと思う。（事務職員）

〇今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実践方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 教員の教育法の技法を教えてほしい。（教員）
- 教育系学会、研究会の参加報告。（教育工学会など）（事務職員）
- もっと多く学生さんや教員と話し合いを行いたい。（事務職員）

【総　括】

今回の「学生とともに進める教育改善」を行うにあたり、一昨年より発足している「学生による教育改善のための協議会」の今年度のメンバーと、何を、どう進めるか、について何度も議論しました。学生、教員、事務職員それぞれにアンケートをとるか、などの意見も出ましたが、昨年度の協議会メンバーがまとめ、学長に提言した際に使用した学生アンケート集計結果を基に、テーマを絞ることで一致し、今回のＦＤ・ＳＤを開く事になりました。ここでは、学内の教育に関する諸問題についての解決策を学生・教員・事務職員がグループとなりまとめ上げようというもので、単なる情報の一方通行ではなく、双方向で情報交換し、解決策を提案するという、結論を導くことにベクトルを向けた共同作業の場を提供できたと思います。

全体として、有意義あるいは満足というアンケート結果が示すように、学生・教職員の意見交換はスムーズに行われたと感じましたし、協議会メンバーの素直にして有意義

な意見と和やかな雰囲気のもと活発な議論は、私たち教職員にとっては、大変貴重な時間であったと思います。おそらく、協議会メンバーである学生諸君も、教員あるいは事務職員の意見も聞くことができたので、有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。一方で、ワークショップ部分、つまり、共同作業で解決策や提言を纏める時間が、全体に対し短くなってしまったため、評価はかなり低くなってしまいました。これは、次年度に開催する際、時間に余裕を持たせた計画にするべきであると、強く反省しています。

自由記述欄にある意見は、おおむね教職員側が、学生の生の声が聞けて良かった、という記述が多く、願わくば、もっと多くの教職員が参加し、学生の生の声を聞き、今回の共同作業の時間を共有して欲しかったと思います。今回、教職員・学生が共同作業で作成した改善策を是非学長の元へ届け、全体の教育改善につながればと思っていますし、大学内に設置されている教育機器、あるいは事務システムも、学生の立場に立てば、もっと改善されるべきであると言うことが浮き彫りになった今回のＦＤ・ＳＤでした。

第８３回 長崎大学ＦＤ実施報告書

平成 24 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
⑨　アクティブラーニング講座５－Ｃ　自己調整学習を促すには－

【趣　旨】　今日の大学教育改革では学生の自学自習が強調されています。自学自習においては学習の自己調整、すなわち自分の理解状況をモニターしながら適切な学習活動に取り組み、自身を動機づけるとともに必要な支援を求めることができなければなりません。しかし、こうした基本的な学習技能は必ずしも学生に備わっているとはいえない状況です。そこで本プログラムでは、自己調整学習の指導の方法について具体的に学びます。

【対　象】　全教職員

【日　時】　平成 24 年９月 28 日（金）14:00～17:00

【場　所】　長崎大学文教キャンパス　教育学部 41 番教室

【講　師】　中西良文氏（三重大学教育学部・准教授）

【内　容】
①　講師より、自己調整学習の内容・評価・育成に関するプレゼンテーション（60 分）
②　自己調整技能育成の工夫の体験的理解（60 分）
③　授業への導入計画立案と質疑応答（60 分）

【到達目標】
①　自己調整学習の内容と評価方法を説明できる
②　自己調整技能育成の工夫をいくつか挙げることができる
③　自己調整技能育成を意図した授業設計ができる

【主　催】　教務委員会

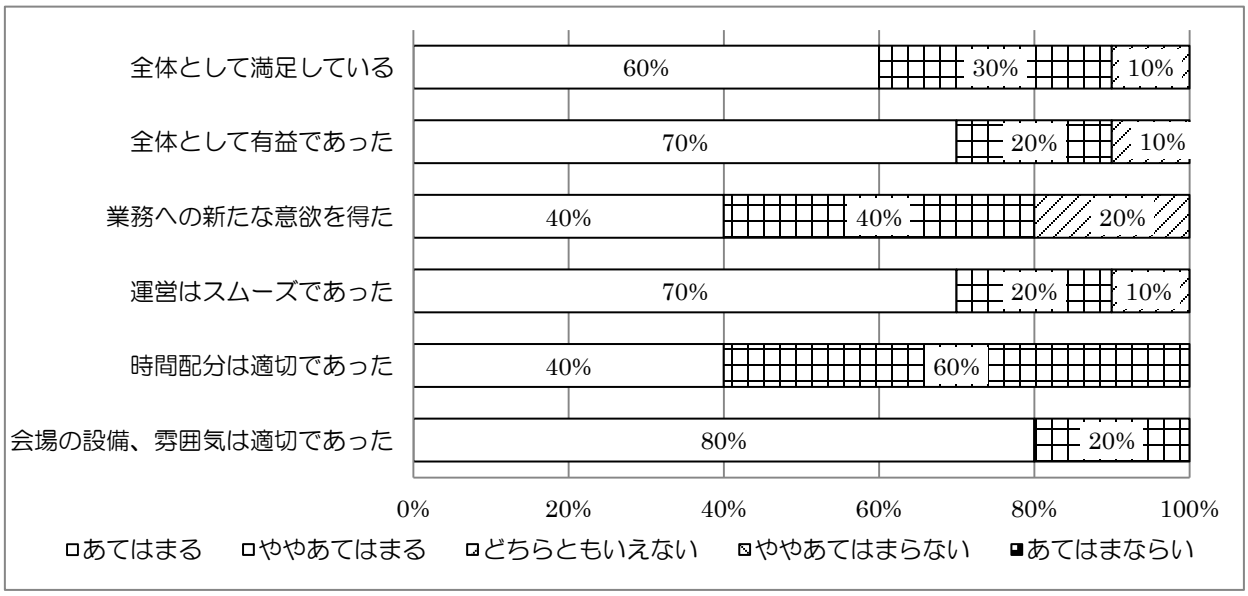
【企画・運営】　評価・FD 教育改善専門部会

【参加者】
１０名（受講証発行対象者：１０名）

所　　属	人　数
教育学部	1
経済学部	2
医歯薬学総合研究科（保系）	1

医歯薬学総合研究科（歯系）	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
言語教育研究センター	2
産学官連携戦略本部	1
計	10

【参加者からの評価】



〇今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- これまでのＦＤの内容を総括するような内容で大変参考になりました。
- いかに学生が自分で動機づけをして、それをどのように教員が発展させいい授業ができるようになるかわかってよかった。中西先生が具体的にどのような授業をしているのかも少し話してもらいたかった。
- 動機づけ、学習方略等など大変新しい機会を教わりました。
- 実践してみて改善していくしかないかと思う。
- 少人数でとても密度の濃いものでよかったです。
- とても参考になりました。さっそく後期から使ってみようと思います。
- せっかく使用されているパワーポイントをすべて資料としてあればスムーズに行けたのに、途中メモをしながら話の内容を聞きそびれてしまいとても残念でした。

〇内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 参加を募る際に「〇〇に役に立つ」という文脈をわかりやすく示せたら、受講者増につながると考えました。

〇今後、ＦＤ・ＳＤのテーマや実践方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- ルーブリックの例、動画の例、どこかでまとめてもらえると助かる。

【総　括】

多くの大学教員にとって「自己調整学習」という概念は必ずしも定着しているわけではないが、その定義や背景となる理論的な裏付け、他の関連する概念との比較対象などを交えてわかりやすく紹介されており、概念の把握はおおむね容易に行われたと思う。効果的な学習において重要な学習者自身の取り組み意欲について心理学的な側面から説明されたことは、理解の深化に大きく寄与していると思われる。

自己調整学習に配慮した講義をどのように実践していくことができるかは、教員一人一人の工夫によるものであるが、とりたてて大きな試みというのではなく、講義の中での学生に対するちょっとした問いかけや作業の中で実践していくことができることが、講習中で行われた実習からもうかがえた。どのＦＤにも共通するが、たとえ短時間でも講演内容に関する自習・作業が含まれることで参加者の理解は格段に深める。こうした経験もまた、参加教員の講義の改善に役立つものと思う。この点からも（アンケート結果からもうかがえるように）実習と講演の時間配分について、講演者と十分に打ち合わせておくことが運営上、重要である。

本学のＦＤが相当程度定着してきたことは間違いないが、今夏の一連のワークショップを通じてそうであったように、参加者が多少固定化してきている感が否めない。また、教授クラスの参加者を増やすことも必要だろう。